

平成 22 年度定例会 9 月会議開会挨拶（平成 22 年 9 月 14 日開催）

平成 22 年度定例会 9 月会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本定例会は、各会計の決算等を審議する重要な議会であります。決算については、審査特別委員会で審議することとなりますが、昨年度 3 事業について試行しました行政評価については、21 年度分から本格導入となり 30 事業について示されました。教育委員会の事務事業評価に関する報告書と合わせ、議会としてもしっかりと検証、評価し、事務事業の計画精度向上、執行の適正化、政策形成過程の情報共有化を図る一環であり、新年度予算へ政策意思の循環を目指す大事な審査となります。議員各位には、活発な討議が展開されますことを願っております。

現在、全国で 118 の自治体が議会基本条例を制定しております。理念的で具体性に欠け「ニセ基本条例」と批判される例もありますが、今後予定されるもの、準備段階の状況から急速な伸展が見込まれております。

8 月下旬開催された「市民と議員の条例づくり交流会議」で法政大学の広瀬克哉教授は、「制度改革時代に求められる実践」と題した議会に対する問題提起をしておりました。

- ・議会基本条例の制定に全自治体の 1 割が視野に入った
- ・議会報告会が倍増し、住民との対話の場をとる議会が 2 割となった
- ・議員間討議の実践が 12.8%、効果は明確になっていないが議決権の拡大が進んでいる等

「内発的な議会改革の広がり」を説明。

大阪府知事・名古屋市長・阿久根市長の発言がマスコミ報道される中、

- ・議会内閣制　・定数、報酬の削減、ボランティア化
- ・リコール、首長応援政党の出現　・世論の後ろ盾が弱い議会と

「議会を取り巻く厳しい状況」も説明されました。

「議会改革の再認識」として

- ①議員間討議　②市民参加　③議会の情報公開と 3 つの基本を再認識し
- ・実現手段として議会基本条例を制定し、しっかり認識することを強調。

「さらなる議会改革の深化を」として

- ・情報公開、透明化から議会をどう「見える化」するのか
- ・効果的なコミュニケーション手法の開拓
- ・政策の調査、立案を住民との共同作業で

- ・新しい双方向メディアの活用などの課題と可能性を指摘しておりました。

研修の実践報告として、予算を統制する「総合計画条例」の制定、住民と自由に幅広く話し合う「ワールド・カフェ」の実践、議会報告会・意見交換会等で調整の重要な役割を果たすファシリテーターの必要性、「ツイッター」・

「ユーストリーム」と新しい双方向性メディアの活用など住民の参加協働に向けた改革の新たな深化の手法が報告されておりました。

国政が、新たな体制でスタートして1年が経過しました。長引く景気停滞を背景に、政権交代による各分野での動揺がなお続いておりますが、地方分権から地方主権へと基礎的自治体の在り方をはじめ小規模自治体に主体性を求める厳しい状況は続きます。町民と協働する、より主体的な町づくりを進めなければなりません。福島町議会としても、尚一層研鑽に励み、目標に向かって着実に歩みを進めていかなければならないと思っております。

お祭りも無事終わり、秋の色合いとなってまいりました。

朝晩は、徐々に冷えてまいります、出席者各位には、お体ご自愛の上、本9月会議の議事運営に協力をいただきますよう、お願い申し上げ開会の挨拶といたします。